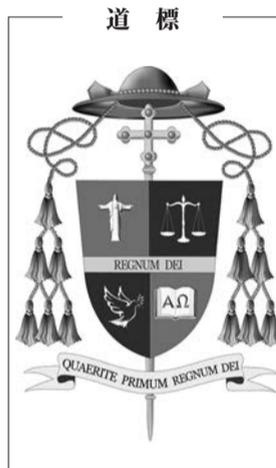




〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



### 司教の手紙

## 「世界宣教の日」に寄せて

### ―屋久島に上陸したシドテイ神父のこと―

鹿兒島教区司教 中野裕明

教区の皆さま、お元気で  
しょうか。今回は世界宣  
教の日(10月23日)に因み、  
禁教令下最後の宣教師シ  
ドテイ神父についてお話し  
します。彼は、1708年屋  
久島に上陸、すぐに捕らえ  
られ、長崎の奉行所で尋問を  
受け、翌年、江戸に送ら  
れ、キリシタン屋敷に収監  
されます。そこで、4回に  
わたり、新井白石の尋問を  
受けます。1710年尋問  
後、シドテイ神父は、自分  
を世話していた夫婦(長  
助・はる)に洗礼を授けま  
す。このことが原因で、1  
714年、彼は牢獄で亡く  
なりました。44歳の生涯で  
した。

シドテイ神父はわずか6  
年間の日本滞在でしたが、  
非常に稀でしかも濃厚な人  
生であったと言えます。現  
在、彼の出身教区シチリア  
のパレルモ教区では当教区  
が提出した「シドテイ神  
父、長助・はるの列福申請  
書」が教皇庁列聖省に受理  
され、これから、列福に向  
けての正式な調査が始まる  
うとしています。

新井白石が、彼から聴聞し  
た結果を口上書として徳川  
將軍へ提出し、後に発刊さ  
れた「西洋紀聞」と「采覧  
異言」を思い出す人が多い  
と思います。その結果、鎖  
国政策の中でも、江戸幕府  
は、シドテイを通して西洋  
の事情に通じていました。  
その意味で、シドテイの功  
績は大である、との評価が  
一般的です。(注、これま  
で日本語の書物では、シド  
ッチ、あるいはシドッテイ  
とカタカナ表記されていま  
したが、今回は、イタリア  
人でシドテイ神父の研究家  
の原語表記の厳密な検証結  
果に準じてシドテイと表記  
しています。)

それでは、私たちはカト  
リックの立場として、宣教  
師シドテイのいくつの特  
筆すべき点をお話します。

#### 教区司祭は宣教師?

「宣教師」というと一般  
的には「キリスト教国の  
人が、キリストを知らない国  
へ行つてキリストのことを  
その土地の人々に知らせ  
る」使命を帯びた人のこと  
を指します。従つて、日本  
人の私たちには「宣教師と  
は、常にキリスト教国であ

る欧米人である」という潜  
在意識があります。

もう少し厳密に言う  
と、カトリック教会の中では19  
世紀までは、宣教師とい  
うと修道会(イエズス会、フ  
ランシスコ会、アウグスチ  
ノ会、ドミニコ会など)の  
会員のみでした。そのため  
か、当時の情報ではシドテ  
イ神父の所属は、イエズス  
会とか、アウグスチノ会と  
表記されてきました。もち  
ろん、19世紀後半からは、  
元来、教区司祭でありなが  
ら宣教熱に駆られて、非キ  
リスト教国に派遣される、  
宣教会が組織されます。  
(例えば、パリミッシオン  
会、ミラノ宣教会、聖ザベ  
リオ宣教会などです)。こ  
のことを考えると、シドテ  
イ神父の場合、1708年  
の来島なので、つまり、修  
道会全盛期のころ、修道会  
の支援なしに、いわば単独  
行動だったと言えます。彼  
はシチリア島のパレルモ教  
区司祭だったからです。

何故、彼は、禁教令下の  
日本に潜伏しようとする  
のか?

彼は、優秀な司祭だった  
ので、ローマ教皇庁の公証

官に召されます。公証官と  
はこの世の職業でいうと政  
府官僚にあたると言えま  
す。つまり、1622年に  
創設された福音宣教師(非  
キリスト教国の事情を把握  
し、宣教師を総合的に判  
断し、教皇に進言する部  
署)に保管されている、禁  
教令下におかれている日本  
の教会の詳しい事情に  
触れることができました。

当時の日本では徳川幕府  
の信者に対する厳しい弾圧  
は、1637年の島原の乱  
平定まで続いていました。  
それでもなお、1641  
年、潜入したルビーノと4  
人の宣教師(フィリッピン  
から来たドミニコ会士)が

### 執筆活動に邁進

#### パウロ坂本進神父が帰天

教区司祭パウロ坂本進神  
父が8月24日(水)午後、  
入所先の特別養護老人ホ  
ム「オアシスケア清水」で  
亡くなった。75歳だった。  
1947年1月17日に長  
野県に生まれた坂本進神父  
は、神言修道会に入会し1  
984年3月17日に司祭に  
叙階された。

叙階後は、台湾やタイの  
大学で教壇に立つなどし、  
縁あって2009年4月か  
ら鹿兒島教区での司牧(種  
子島教会)に携わった。そ  
の後、溝辺教会に転任(2  
011年4月)し、その翌



高い評価を与えていま  
した。この友好的な2人の関  
係を察したオランダ人の通  
訳は本国に、幕府はキリス  
ト教を解禁するかもしれな  
いと報告しました。これを  
聞いたローマ教皇庁はシド  
テイ神父を「教皇庁からの  
使者」という身分から、  
「教皇代理」の身分に引き  
上げました。しかしその証  
書が江戸に届いたのは、シ  
ドテイ牢獄死の後でした。

彼は、屋久島に降り立つ  
前に、船長に残した手紙の  
最後に次のように記してい  
ます。  
「私が支えとするのは自  
分の力ではなく、イエス・  
キリストの全能の恵みと、  
過去の100年ほどの間に  
その名を守るために血を  
流した多くの殉教者の保護  
なのです。」(マリオ・ト  
ルチピア著「ジョバンニ・  
パッティスタ・シドテイ」  
94ページ)

捕縛され、その後、殉教す  
る、という記録がありま  
す。シドテイ神父が来島し  
たのは、それから67年後の  
事でした。  
シドテイ神父の来日の目  
的はただ一つ、徳川幕府の  
將軍に会つて、禁教令を解  
除してもらうことでした。  
教区司祭の身分で、当時、  
修道会の後援もなしに、殉  
教を覚悟で日本へ潜入でき  
たのは、ひとえに「自分は  
ローマ教皇庁からの使者で  
ある」との自覚であったと  
思います。しかし、実際  
には教皇庁の上司たちは、シ  
ドテイ神父の日本潜入には  
反対でした。それで優秀な  
彼をフィリッピンに留めて  
その教会の重要な任務に  
就くように勧めていまし  
た。しかし、彼はその提案  
を断り、弾圧下で苦しんで  
いる日本の信者たちのため  
に来島したのです。

彼は尋問した新井白石  
は、キリスト教の教義につ  
いては否定的でしたが、彼  
の博識と人間的な高貴さには

現のために自らが掲げた目  
標を達成させることができ  
ず、苦しみ、生きる気力を  
失い、最近では食事も取る  
ことができず衰弱していたよ  
うだ。だから彼には「疲れ  
た者、重荷を負う者はわた  
しのもとにきなさい」と  
の言葉を送りたい。悩み苦  
しんだ彼の国籍は天の国に  
あると確信している」と説  
教した。  
葬儀ミサ後の告別式で  
は、信者を代表して、松崎  
恵美さん(ザビエル教会)  
がお別れの言葉(4面に掲  
載)を述べ、神父の天国へ  
の凱旋を祈った。  
火葬された坂本神父の遺  
骨は、その日のうちにカト  
リック唐湊墓地にある司祭  
の墓に埋葬された。

# 第二部 カトリック教会の多様性

## V. 教会の構成員とその任務における多様性

### 1. 信者の多様性は本質的に一致へ向かう

すべての信者は「神の子」という共通の基盤を持つので、信者の多様性は本質的に一致へと向かいまゝです。この文書の「はじめに」の項で述べた、教会自体を飾る任務と役割、つまり聖職者(司教・教皇も含む)、司祭、助祭の多様性、また生活様式や召命の違いから生まれる男子・女子修道者、未婚信徒および家庭生活者の多様性、さらに民族、国籍、社会的身分、職業、ジェンダーなどの社会的多様性を含めて、構成員は例外なく同じ神の子であり、対等であり、同じ品格を持ち、これが皆に共通の基盤です。

さらに、彼らはそれぞれレベルで預言職(宣教)、祭司職(聖化)、王職(統治)を果たす使命を持ち、またそれぞれの役割(第二バチカン公会議においては「役務」がよく「奉仕」に言い換えられています)と生活様式の違いがあつても、まさにその違いにおいて唯一のキリストの交わりで参与するよう求められています。私たちがこの多様性を賜物として受け入れ、敬意を抱いて生きるとき、神の子たちの豊かな品格が輝きます。

### 2. キリスト信者

そこで教会の構成メンバーとその任務と使命を示すことにしましょう。

て人です。私たちは洗礼によってキリストの命に結ばれます。その命とは受肉されたイエスの命、人間としてその生涯を生き、十字架の死と復活によって今も生きておられ、父の右にいられるイエスの命です。洗礼によって私たちは皆等しくイエスの復活の命にあずかり、永遠の命を生きているのです。洗礼は最初の秘跡、そこから他の秘跡を含めた信仰生活が始まりまゝです。教会において信徒と聖職階の役割が違つても、信者としての命に等しくつながつており、その限りではまったく平等です。このような概念を基本にして教

す。信徒は下記に述べるように世界の只中に生活し、世界を福音化して神の国に近づけるようにする主役を担うからです。聖職階に属する者は特に教会の中の任務に奉仕し、促進していく使命を果たすために召されています。

## カトリック教会の多様性を生きる

### とくに信徒と聖職階とのかわりの中で

鹿兒島教区司祭 永山 幸弘

会法はキリスト信者をこのように規定しています。

「キリスト信者とは、洗礼によってキリストに合体されたことにより神の民とされたものである。キリスト信者はこのゆえに、各人各様に、キリストの司祭的、預言的及び王的任務にあずかり、各自に固有の立場に応じて、神が教会にこの世で果たすように託した使命を実践するよう召されている」(教会法第204条第1項)

### 3. 信徒

信徒と聖職者は教会の中での区別であつて、分離でも、上下の関係でもありません。聖職階より先に、まず信徒について考えま

秩序づけながら神の国を探し求めることである」(教31)。「キリストにおいて新たに生まれることから各成員の品位は共通であり、神の子としての恵みも共通、完徳への召命も共通であつて、救いは一つ、希望は一つ、愛は分割されることはない」(教32)。

(1) 公会議は先ず、消極的な表現で定義します。「ここで言われている信徒とは、聖なる叙階を受けた者並びに教会において認可された修道身分に属する者以外の、すべての信者のことである。すなわち、洗礼によってキリストの体に合体され、自分たちのあり方に従つて祭司職、預言職、王職に奉仕する者となり、教会と世界の中で、自分たちの分に依りて、キリスト

を信じる民全体の使命を果たすキリスト信者のことである」(教31)。

(2) 積極的な定義として、次のように述べます。「信徒に固有な特質は、世俗と深くかかわつていて、聖なる叙階の成員は時に世俗のことにかわり、さらには世俗的な職業に従事することもできるが、主としてまた本来、聖なる奉仕に秩序づけられていて、また修道者はその身分をもつて、真福八端の精神なしには世の姿を変え、世を神に奉獻することもできないことを示す明白かつ優れたあかしとなつていて、これに対して、信徒に固有の召命は、現世的なことがらに従事し、それらを神に従つて

を認める社会になつていくように努めること、と言えらるでしょう。

### 4. 司教

(1) 第二バチカン公会議は司教を次のように定義している。「聖なる教会会議は、司教が教会の牧者として、神の制定によって使徒たちの位置を継承したものであり、彼らに聞く人はキリストに聞き、彼らをさげすむ人は、キリストとキリストを派遣した方をさげすむものである(ルカ10・19参照)と教える」(教20)。

「公會議は敢えて「さげすむ」という強い表現を用ひていますが、なぜなのでしょう。神の民である教会の牧者を任命した方は父である神自身によるものであり、彼らをさげすむことは神をさげすむことだ、という両者の一体性を示しているからでないかと考えます。その尊厳は叙階の秘跡を源泉とするもの、「祭司職の頂点」、「祭司職の充満」を所有しているという権限の秘跡性を鮮明にしているのです。

(2) 公會議以前に私たちが教わつたのは司教と司祭の相違は統治権(さいちけん)であり、権利と義務において司祭は司教に依存しているということでした。この権限は統治権ともいわれ、叙階の秘跡にその源泉を持つとは考えられています。しかし第二バチカン公会議は権限の大小ではなく、権限の充満そのものが叙階の秘跡に基づくものであることを教えています。「聖なる教会会議は、叙階の秘跡の充満は司教聖別によつて授けられると教える。それは、教会の典礼の慣習と聖なる教父たちの言葉によると、最高の祭司職、聖なる役務の頂点と呼ばれている」(教

を認める社会になつていくように努めること、と言えらるでしょう。

21)。

(3) 司教は叙階の秘跡によつて祭司職、預言職、王職の充満を受けています。司教は固有の場である教区(部分教会)において指導者あるいは責任者として秘跡と典礼、特にミサについて整え、信者が典礼と霊的生活を豊かに享受するように導きます。(また司教は教皇との位階的交わりの中で、全世界の宣教司牧に關して共同責任を担つています。司教の王職は教区の統治者として信仰生活に必要なことすべてに配慮して、導きます。教区の他にその地方の司教団の一員として統治する共同責任も担つています。

(4) 最後に信徒の使徒職について簡潔に触れておきます。「信徒の使徒職は教会の救いの使命そのものへの参与であり、すべての人は洗礼と堅信を通して主ご自身からこの使徒職に任命される。信徒はとくに、自分たちに必要な教会が地の塩となりえない場所と環境において教会を存在させ活動的なものとするように招かれていて」(教33)。

「信徒の働きによつて、教会が世界の中で酵母のようになつていき、聖職階に属する人はそのために信徒を養い、その奉仕に尽くすよう求められています。」

を認める社会になつていくように努めること、と言えらるでしょう。

### 6. 助祭

「聖職叙階の下位の段階に助祭がいる。彼らは「祭司職のためではなく、役務のために」按手を受ける。助祭は秘跡の恵みに強められ、司教及び司祭団の交わりの中で、典礼の言葉と愛の「奉仕」を通して神の民に仕える」(教29)。

原始教会から5世紀に至るまで西欧では助祭制度は盛んでありましたが、第二バチカン公会議は現代こそ必要であると認め、歴史的な再興を行いました。それまでも助祭制度は続けられていたのですが、それは司祭職に至る単なる過渡期的な段階として続けられていました。公會議によつて再興された助祭制度は終身制を取り、妻帯している助祭と妻帯しない助祭を認めています。終身助祭制度を選択した理由としては、(1) 教会を助祭の職務の奉仕をもつて豊かにする、(2) すでに助祭的職務を果たしている者たちをその叙階の恵みによつて強める、(3) 聖職者の不足に苦しむ地方の聖なる奉仕者を配慮するという心配りです。但し、終身助祭の再興は、司祭職の役務の意味、その役割と豊かさを損なうことを少しも意図したものではありません(教皇庁教育省・教皇庁聖職者省「指針 終身助祭」2参照)。

を認める社会になつていくように努めること、と言えらるでしょう。

久保修さん、受洗おめでとございます！

久保修さんは婚約者の勧めで、洗礼を受けることを決断されました。

2021年12月からカトリック要理の通信講座を受けられ、この度、修了証書を受領されました。そして8月15日の聖母被昇天祭のミサの中で、郡山健次郎名譽司教様によって洗礼を授けられました。代父は恩師である永井勲さんです。洗礼名はヨハネ。

当日は婚約者と教会の方々に見守られ、洗礼式が行われました。お二人が並んでおられるお姿は温かく晴れやかな感じでした。コロナ感染予防対策のため、祝宴は行われませんでした。指宿教会に仲間が増え喜びに満ちています。



喜びの久保さん (中央)

指宿教会 福沢智子

お二人のこれからの人生が神様と共にありますように心からお祈りいたします。

「ゆらいあい」が 高齢者の集いを終了

「ゆらいあい」では2006年6月から、レデンプトル宣教修道女会鹿兒島修道院(鹿兒島市唐湊)で高齢者の集いを開催してきました。しかしながら新型コロナウイルス感染症の流行が脅威となつてから休会してあります。そしていまだに終息の見通しが立たない現状では、再開することが難しいと判断いたしましたので、活動終了を決定しました。ご了承ください。

これまで司教様や司祭方、修道者などから多くのご支援、ご指導をいただきました。また出席して下さった多くの高齢の皆様やボランティアの皆様のご協力により、この集いを続けることができました。ありがとうございます。 ゆらいあい運営委員会

以前(2012年3月)、マタイ福音書にのみ見られる「軛」という言葉について解説しました(マタイ11:29-30)。

そこでは農耕具として軛の三つの役割、即ち、一つ目は二頭を繋ぐことでより大きな力を出すため。二つ目は二頭の牛馬が離れ離れにならないようにするため。三つ目はお互いの負担を軽減するためといった本来の目的をお話ししました。

イエス様の軛に関する一連の言葉はイエス様のオリジナルではなく、詩編を下

《康由神父の聖書教室》

軛・イエス様は離れない

動揺しないように計らってください」とあります(詩編55:23)。

この箇所を直訳すると「あなたの重荷を主に放り出せ。彼は支援し続けている

(55)



敷きにしたものと考えられます。彼は正しい者を揺るがさず、(また)永遠の軛を与えない」となります。

私たちが日常の中で担える重荷の限界は神様がご存知です。ですから過分を主に放り出したとしても咎められることはありません。また、人間は神様の愛の中で生きていくのですから、どのような状況下にあろうともすべては神様の計らい

の中にあります。それを信じているか否かは私たちの問題です。何事も神様に委ねて生きることが難しいのです。だからこそイエス様は「わたしの軛は負いやす(い)」と言われるのです(マタイ11:30a)。

イエス様がいつも離れないように共におられるからこそ絶望ではなく希望を見出すことができます。それが詩編に見られるように主に支えられて従う者であり、神様を信じる者の生き方と言えるでしょう。 私たちが軛・重荷を担う

期間は有限です。永遠の軛は決して与えられません。また、今を生きるにあたっての苦しみを本心に癒せるのはこの世を越えて永遠に生きる神様とイエス様です。

きつと今の不条理な生き辛さは神様やイエス様への祈りによって昇華されることでしょう。その為にもイエス様の「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」という言葉をいつも心に留めたいものです。



+KABAYAN SEKSYON+

Ang Laiko Sa Ika 2 Konsilyo Vaticano

Tunay na isang mahalagang pangyayari ang ika 2 Konsilyo Vaticano (1962-1965) sa buhay ng nakabagong Simbahan.

Ipinahayag ni San Juan XXIII ang kanyang pangarap sa isang panalangin sa Espiritu Santo: "Panibaguhin moa ng iyong pagkilos sa aming panahon, katulad ng animo'y isang bagong Pentekostes..." Ipinahayag ni San Juan Pablo II: "Ang mga dokumento ng Konsilyo... ay hindi nawalan ng halaga o kaningngan... Sa Konsilyo tumanggap tayo ng isang tiyak na kompas para gabayan tayo."

Bagamat naging bahagi ang mga laiko sa ilang nagdaang Konsilyo, naroon sila bilang mga kinatawan lamang ng mga pinuno ng lipunan.

Sa Vaticano II, inanyayahan ang mga laiko (auditors) bilang Christifideles, bilang mga Kristiyanong Katoliko. Naroon sila sa personal na paanyaya ni Papa Pablo VI.

Halimbawa, mayroong 40 auditors sa ikatlong sesyon (1964) kung saan 17 ay mga kababaihan; nadagdagan ang kanilang bilang sa ikaapat at huling sesyon noong 1965.

Ang pagbabahagi ng mga laiko ay nagbunga ng dalawang mahalagang dokumento: Apostolicam Actuositatem (Laiko) at Gaudium et Spes (Simbahan sa Makabagong Panahon). Hindi mapapasubalian ninuman ang aktibong pagkilos ng Espiritu Santo sa Vaticano II.

Napalaking tulong ang Vaticano II sa mga pagbabago ng pamamaraan ng pagkilos at pagpahayag ng mga turo ng Simbahan. Tulad ng liturhiya, mga karisma at mga gawaing kawanggawa na ang Espiritu Santo mismo ang gumagabay at tumulong para sa misyon ng mga laiko at ng Simbahan.

Laiko, Simbahan at Misyon (Fr. Dino Orloff)

シドッチ神父屋久島上陸記念祭

Table with event details: Date (Nov 23), Time (14:00-17:00), Location (Catholic Church, Sidouchi Shrine), Content (14:00 Sidouchi Shrine Mass, 15:00 Sidouchi Shrine Landing Memorial Service, 16:00 Sidouchi Shrine Mass with Fr. Sidouchi), Speaker (Fr. Sidouchi), Organizer (Catholic Parish, Sidouchi Shrine Education Committee), Contact (TEL 080-3993-4512).

「ウクライナ」支援募金 教区では、レデンプトル宣教修道女会とカノッサ修道女会を通してウクライナ支援することにしました。郵便振替は下記の通り。

郵便振替：02030-2-8359 加入者名：カトリック鹿兒島司教区 \*通信欄に「ウクライナ」と明記の事

会と催し 10月

- 2日(日) 年間第27主日
4日(火) サンタマリア神父叙階記念(1970年)
5日(水) デクルス神父命日(1980年)
8日(土) 大松正弘神父命日(2018年)
9日(日) 年間第28主日
10日(月) 教区評議会・ザビエル教会及び教区本部・10日
12日(水) 福崎英雄神父叙階記念(1989年)
16日(日) 年間第29主日
18日(火) レジオマリエ鹿兒島・谷山教会・14時
19日(水) 聖ルカ福音記者
22日(土) 内野洋平神父霊名(聖ルカ)
23日(日) 中野アカデミー・教区本部・19時
24日(月) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
26日(水) 青年会・鴨池教会・18時30分
28日(金) 年間第30主日
30日(日) 世界宣教の日(献金)
31日(月) 大水如安神父命日(1994年)
【司教日程】5月6日 常任司教委員会(東京)、9月10日 教区評議会、12日 中野アカデミー、19日 中野アカデミー、20日 大口明光学園、26日 中野アカデミー

祈りの意向 「祈祷の使徒会」

日本の教会 医療従事者 すべての人に開かれた教会

オンライン講演会

「コミュニケーションと性暴力」

性暴力は夫婦間や恋人間など、身近な関係性の中でも発生しています。そうした関係性の中に潜む性暴力とその苦しみについて知り、互いを尊重しあうコミュニケーションの大切さについて、当事者としての視点と支援者としての経験を踏まえてNPO法人レジリエンス代表中島幸子さんがお話しされます。

日時：10月23日(日) 14時~16時
参加方法：各小教区ごとにオンライン視聴が可能な場所に集まって参加する。
参加費：無料(参加申込は別途、主任司祭を通してお知らせします。)
申込締切：10月17日(月)
主催：カトリック鹿兒島司教区子どもと女性の人権相談室
問合せ：担当・末吉神父 TEL.099-226-5100

# 神様、ありがとう！

## —坂本進神父様を偲んで—

ザビエル教会 松崎 恵美

私が坂本神父様についてお話ししたいことは、二つあります。

一つはある時、坂本神父様ご自身の体験から、私にくださったアドバイスです。「松崎さんと私は似たところがあつて、『嫌われても、嫌われても前に進むね』とおっしゃいました。その時、私は「嫌われているところが似ている」と言われた気がしました。

確かに私自身「嫌われようが、どうだろうが、なりふり構わず『今日すべきことは、今日しなければ前に進めない』と何かにせき立てられるように、前進あるのみ」でした。

今、思い返せば、母の洗礼のためだけに、歴史の掘り起こしのために、私も、神様が坂本神父様を遣わしてくださったのだと思います。坂本神父様との出

会いには、成り行きや偶然ではなく、神様のご計画の中にあつたのだと思います。坂本神父様も何かに動かされておられると感じて、「松崎さんと私は似たところがあつて」とおっしゃったのかもしれません。

はじめは坂本神父様に導かれて歴史の掘り起こしを始めたが、途中から郷土史を読み進めていくうちに、史実が作り変えられ、つじつま合わせに無理を重ねていくことが分かるくらいに不自然さを感じ、行き詰まりました。その後、私は坂本神父様から離れて、単独行動をしました。再会した時には、坂本神父様は体調を崩されていました。

現在、世界大戦が始まるかもしれない危機の中にあつて、今こそ、歴史を知らなければと強く思っています。歴史の掘り起こしのため、

め「種まき」をしてくださった坂本神父様の働きに感謝しています。坂本神父様にお話ししたいことは、私の母と坂本神父様とのかわりを通して、神父様のお役目の神祕、尊さを初めて感じる事ができたことです。



母の死に向かつての残り2週間、坂本神父様との最後の面会の時の母の笑顔が、信賴しきつた笑顔で、ご聖体をいただいたままに。死にゆく人を笑顔にさせることができる、尊いお役目を深い感動をもって見ていたいただきました。坂本神父様を与えてくださった神様に心から感謝します。坂本神父様、ありがとう。2022年8月26日

# 信徒のための信仰生活指針⑥

## 第2バチカン公会議に基づく信徒固有の霊性

自分たちの信仰生活をもっと充実したものとするため、カテキズム(要理)を学びたいという希望に沿うための一つとして、故・糸永司教様が出された「信徒のための信仰生活指針」を連載することにしました。

### 第四章 教会の活動と維持に関する信徒の協力

教会がその使命を遺憾なく発揮するには、教会の生活と活動が正しく組織・運

営され、財政的にも支えられていなければなりません。この面でも信徒の役割は重要です。

#### 1. 教会活動における応分の責任分担

信徒は教会の責任あるメンバーとして教会運営に参加し、必要な役割を分担し、また、小教区の事務その他の業務を担当します。そのほか、信徒だからできる種々の発言をもって教会

の発展に貢献するため、種々の評議会や委員会に参加し、協力します。

#### 2. 教会維持に関する応分の責任分担

信徒はまた、教会の建物や活動、各種奉仕者の生計を維持するため、応分の財政的負担をします。これは、「教会の第五のおきて」(註六)として規定されています。信徒の教会維持運営に対



要 理

みなさんは飛行機に乗ったことがありますか？ 飛行機にはいろいろな種類があります。が飛び立つためには滑走路が必要になります。この滑走路の長さは飛行機の重さに比例します。つまり乗客数や積載量の多い飛行機ほど滑走路距離は長くなるということです。どんな飛行機でも飛び立つための力を蓄えなければ飛び立てません。

## 飛躍のために必要なこと

このことはみなさんの学びと同じです。成績の伸び悩みは滑走路を走っているかのようなものです。「頑張っているんだけど、こんなことをしていてもダメだ」と落ち込むこともありません。でもやり続けなければ飛び立てないのです。まだ飛び立つ時が来ないだけなのを信じていらなくて走り続けるのを止めてしまふことがあります。「やっぱり自分にはできない」とあきらめてしまふことがありますか？ このようなことを「荷が重い」と

表現します。

聖書には「あなたの重荷を主にゆだねよ/主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え/とこしえに動揺しないように計らってください。」「という言葉があります(詩編55・23)。目的をもって何かをしているときは不安が付き



まとうものです。その不安は自分だけが感じているのではありませぬ。みなさんが感じている不安を心配しながら見守つていてくれるのです。この不安や心配は愛でもあります。であればみなさんは離陸するために必要な愛という向かい風を受けているということ。自分が愛されていることを思えばきつと高く飛び立てます！ だから毎日の地味な努力を忍耐をもって続けてください。きつとその時が来ますから…。

とする典礼暦年ですが、さらに、小教区や教区、そして全国の教会の記念や催しがあります。

a 全国レベルでは、毎年四旬節の期間中、支援を必要とする内外の事態に対応するための「愛の運動」があり、世界平和について学び、考え、祈る「カトリック平和旬間」(8月6日~15日)や聖書に親しみこれを普及するための「カトリック聖書週間」(11月第3週)があります。

b 教区レベルでは、「カテドラル(司教座教会)の献堂記念日」がカテド

ルでは祭日として、教区内諸教会では祝日として記念されます。また、教区民の祈りと協力を特に必要としている教区司教のために祈る「司教叙階記念日」があります。その他、教区特有の各種の「記念祭」もあります。

註六) 教会の第五のおきて、教会法第222条

「(1)キリスト信者は、教会が神の礼拝、使徒職及び愛の業、並びに奉仕者の生活の正当な維持に必要なものを援助するために教会の要請に必ずる義務を有する。」